Osaka University Knowledge Archive

Title	Kathmandu Valley, Nepalでのう蝕罹患状況に関する疫学的研究
Author(s)	水谷, 成彦
Citation	大阪大学, 2002, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/44011
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【1】

氏　　名	水谷成彦（みずたにしげひこ）
博士の専攻分野の名称	博　士（歯　学）
学　位　記　番　号	第　17218　号
学位授与年月日	平成14年5月28日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 歯学研究科歯学臨床系専攻
学　位　論　文　名	Kathmandu Valley、Nepal でのう蝕罹患状況に関する疫学的研究
論　文　審　査　委　員	（主査） 教　授　和田　健 （副査） 教　授　丹羽　均　　助教授　玉川　裕夫　　講　師　飯田　征二

論　文　内　容　の　要　旨

［研究目的］

Nepal は 1990 年に君主政治から議会制民主主義に移行したが、それに伴う開放意識のもとで食生活を含めた生活スタイルの急速な都市化傾向が伺われ、これらの口腔保健への影響が懸念されている。しかしながら同国では国民の健康に対する諸制度は未だ充分に確立されておらず、口腔保健に関する施策ははとんど未整備の状態である。また、同国の口腔保健に関する疫学的資料は僅少で、適切な現状の把握にはさらに新しい資料集積による検討が望まれている。

本研究は、首都 Kathmandu などの都市部と、その周辺の旧態然とした生活、習慣が営まれている丘陵地農村を含む Kathmandu Valley で施行した口腔検診の結果から、乳歯および永久歯のう蝕罹患状況について、都市部と農村部の比較検討を行い、同国における口腔保健の現状を明らかにし、歯科医療の推進について指針を得ることを目的としたものである。

［研究対象と方法］

1997 年、1998 年及び 1999 年に、Central Nepal の Kathmandu Valley にある首都 Kathmandu と商都 Kirtipur 及びその周辺の丘陵地農村地帯の 6 村落（Daman、Durikhel、Sankhu、Seti Devi、Tikathali、Lamatar）、延べ 12 カ所で口腔検診を施行した。受診者の中から、個人識別が可能であった総計 3337 名の口腔検診票を抽出し研究対象とし、都市部（urban）および農村部（rural）に分類し、分析した。

口腔検診は著者ら日本人歯科医師 4 名が担当し、WHO 口腔検診票に準じた記録票に直接記入し、Nepal 人通訳により受診者の氏名および年齢など個人識別に関する事項の正確な記入に努めた。診査精度に関する事前の検定では、kappa および Modified Percentage Reproducibility は検査者間でそれぞれ、0.86－0.90、93.7－96.7%であり口腔診査および本研究の遂行に支障のないことが確認されている。

［研究結果］

う蝕の罹患状況を明らかにするため、各年齢区分での Caries-free %（う蝕歯を所有しない被験者の百分率）およ

び With untreated caries %（未処置う蝕歯を所有する被験者の百分率）、dft または DMFT（１人平均う蝕経験歯数）、dt または DT（１人平均未処置う蝕歯数）、MT（１人平均喪失歯数）、ft または FT（１人平均処置う蝕歯数）によりう蝕経験歯数を分析し、乳歯および永久歯について年齢、都市部（urban）および農村部（rural）別に分類し検討した。

１．乳歯う蝕について

1-1) Caries-free %（total）は４歳：34.5%、５-６歳：35.9%、７-11 歳：42.3%、12 歳：56.9%を示し、４歳から 11 歳に至る各年齢区分で都市部が農村部より有意に小さい値を示した。

1-2) With untreated caries %（total）は４歳：65.5%、５-６歳：63.8%、７-11 歳：57.4%、12 歳：42.8%を示し、４歳から 11 歳に至る各年齢区分で都市部が農村部より有意に大きい値を示した。

1-3) dft（total）は４歳：3.66、５-６歳：3.38、７-11 歳：1.91、12 歳：0.91 を示し、４歳から 12 歳に至る各年齢区分で都市部が農村部より有意に大きい値を示した。都市部、農村部とも ft は 0.03 以下を示し、乳歯のう蝕処置を受けた者はほとんどいないことが示された。

２．永久歯う蝕について

2-1) Caries-free %（total）は５-６歳：87.7%、12 歳：60.8%、15 歳：49.4%、35-44 歳：35.9%、65-74 歳：8.6%を示し、５-６歳、12 歳、13-14 歳、15 歳、16-24 歳、25-34 歳の各年齢区分で都市部が農村部より有意に小さい値を示した。

2-2) With untreated caries %（total）では５-６歳：12.3%、12 歳：38.1%、15 歳：45.3%、35-44 歳：55.3%、65-74 歳：75.7%を示し、５-６歳、12 歳、13-14 歳、15 歳、16-24 歳の各年齢区分で都市部が農村部より有意に大きい値を示した。

2-3) DMFT（total）は５-６歳：0.57、12 歳：0.90、15 歳：1.52、35-44 歳：2.52、65-74 歳：8.93 を示し、５-６歳、12 歳、13-14 歳、15 歳、16-24 歳、25-34 歳の各年齢区分で都市部が農村部より有意に大きい値を示した。都市部、農村部とも FT は 0.44 以下を示し永久歯う蝕処置を受けた者はほとんどいないことが示された。

３．Nepal と日本との比較

3-1) 乳歯 caries-free %は５-６歳、７-11 歳で、With untreated caries %は４歳から 12 歳に至る各年齢区分で Nepal が日本より大きい値を示した。dft では５-６歳、７-11 歳で Nepal が日本より小さい値を示した。C_2/dt は Nepal が日本より小さい値を示した。

3-2) 永久歯では７-11 歳から 65-74 歳に至る各年齢区分で Cariefs-free %は Nepal が日本より大きく、With buntreated caries %でも Nepal が日本より大きい値を示す傾向が伺われたが、DMFT は Nepal が日本より小さい値を示した。C_1/DT は Nepal が日本より大きく、C_2/DT は Nepal が日本より小さい値を示した。

以上の結果から Nepal では学童期および青壮年期を通じて、う蝕罹患状況は都市部が農村部より大きいこと、アジアの周辺諸国に比較して著しく小さいことが明らかになった。しかしながら、う蝕予防体制およびう蝕治療の面での整備が同国における緊急の課題であると考える。

論文審査の結果の要旨

本研究は、中央ネパールの首都 Kathmandu を含む都市部とその近郊の丘陵地農村部でのう蝕罹患状況に関する疫学的調査について分析したものである。その結果、う蝕罹患状況は都市部が農村部より悪化の傾向を示すこと、ほとんどのう蝕罹患歯は治療されず放置されていること、それにも関わらずう蝕罹患状況は国際的には良好な状態にあること等が明らかになった。

この知見は同国における歯科医療の向上と国際的支援を検討する上で重要な指針を提示するものであり、博士（歯学）を授与するに値するものと認める。